

「岩手の幸福に関する指標」研究会（第4回）

日時：平成28年10月28日（金）

16：30～18：00

場所：岩手県立大学アイーナ

キャンパス7階学習室1

次 第

1 開 会

2 挨拶

3 協議事項等

（1）第3回研究会で示された主な御意見について

（2）検討項目

ア 中間報告書

イ 今後のスケジュール

（3）その他

4 閉 会

「岩手の幸福に関する指標」研究会 委員及びアドバイザー 名簿

(研究会委員)

氏名	役職名
竹村 祥子	岩手大学人文社会科学部 教授
谷藤 邦基	株式会社イーアールアイ 監査役
山田 佳奈	岩手県立大学総合政策学部 准教授
吉野 英岐	岩手県立大学総合政策学部 教授
若菜 千穂	特定非営利活動法人いわて地域づくり支援センター 常務理事

(アドバイザー)

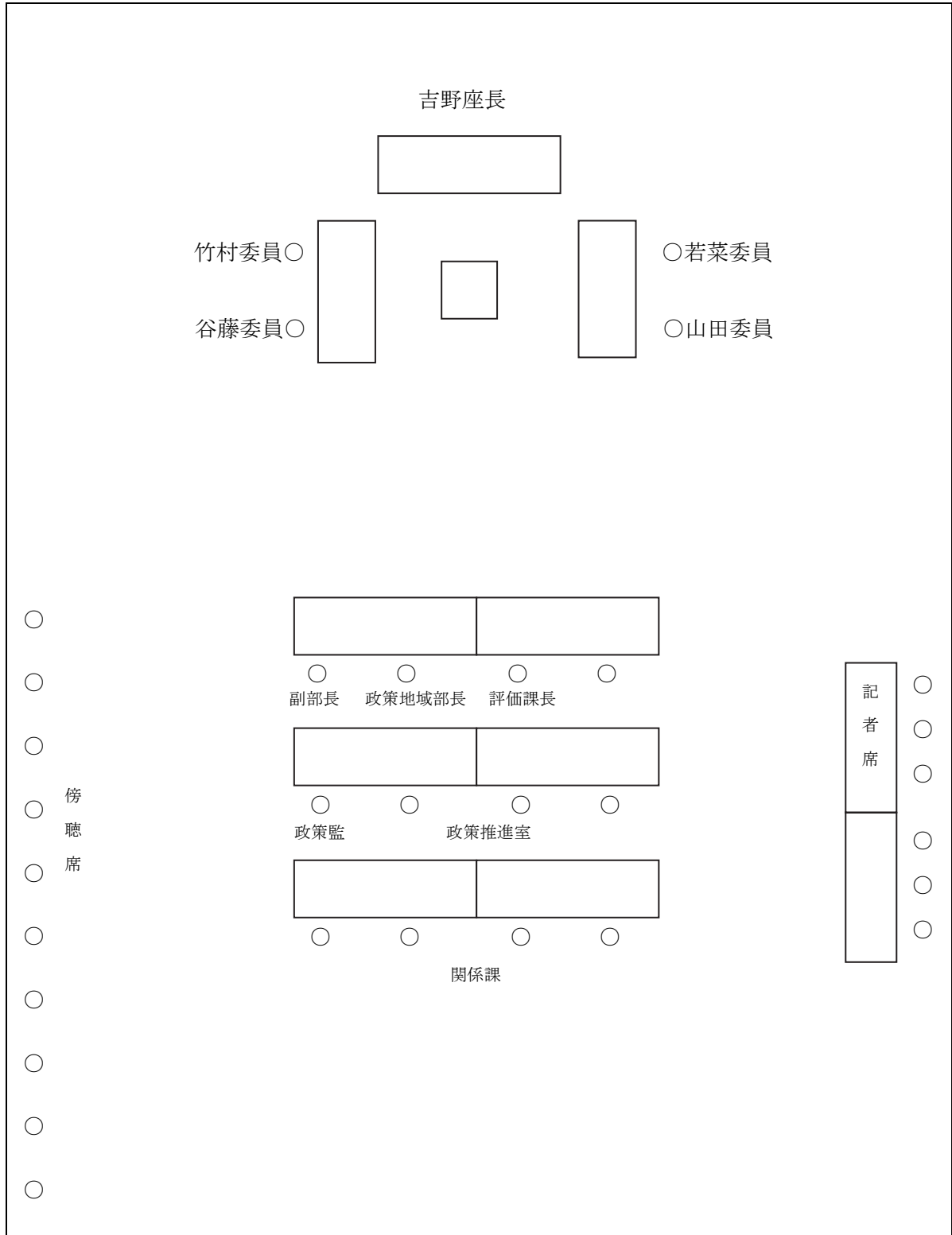
氏名	役職名
広井 良典	京都大学こころの未来研究センター 教授

(敬称略 50 音順)

「岩手の幸福に関する指標」研究会（第4回）座席表

日時：平成28年10月28日（金）16:30～18:00

場所：岩手県立大学アイーナキャンパス7階学習室1



資料一覧

資料 1	第 3 回研究会で示された主な御意見について	3
資料 2	「岩手の幸福に関する指標」研究会 中間報告書の概要 (案)	5
資料 3	岩手の幸福に関する指標 中間報告書 (案)	7
資料 4	今後のスケジュール (案)	33

第3回研究会で示された主な御意見について

1 幸福に関連する領域

- 「経済状況」、「生活」、「ひと」、「つながり」の4つのくくりについて、4大領域と言ってもいいのではないか。

2 指標の種類

- 政策評価への活用を考えると、主観的な幸福感と客観的指標の関連性についても留意する必要があるのではないか。
- 全国的に比較可能な指標を盛り込むのはいいことだが、順位だけでなく、偏差値とか平均との乖離などで見ていい場合もあるのではないか。
- 指標について、同じ項目でも、例えば、収入、所得で言えば、全体額で見るのがいいのか、前年度との増減で見た方がいいのかという観点があるのではないか。
- 客観的指標の項目について以下の意見があった。
 - ・ 教育に、リカレント教育や職業教育があってもいいのではないか。
 - ・ 居住環境に、交通の利便性、買い物のしやすさがあってもいいのではないか。
 - ・ ソーシャル・キャピタルの測定指標で、1人当たり共同募金額があるが、実態をうまく表しているかという点に留意する必要があるのではないか。
 - ・ 若い人を考えた場合、学校教育指標ではなく、生活を測れる指標はないか。

3 県民参画等による指標の活用方法

- ワークショップはやって終わりではなく、読本みたいなものを作ってはどうか。
- ワークショップは大学生だけでなく、高校生を巻き込んでやってみてはどうか。

4 中間報告書

- 指標策定の目的に、どうしてやるのかという、導入の目的をしっかりと示したほうがいいのではないか。

⇒ 1～4について、今後、ご意見を踏まえて検討を進める。

「岩手の幸福に関する指標」研究会 中間報告書の概要(案)

1 「岩手の幸福に関する指標」策定の目的

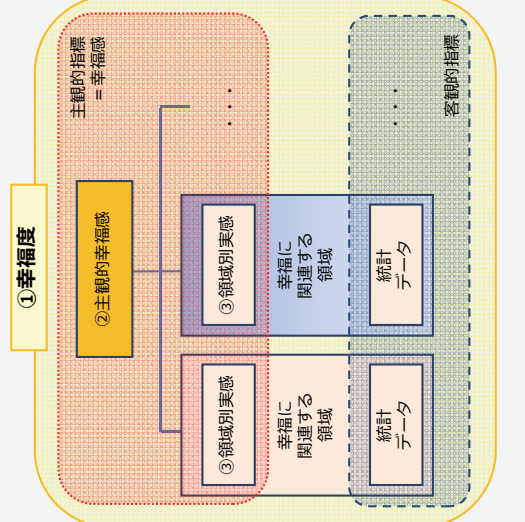
- 経済成長は必ずしも人々の幸福とは繋がっていないとの研究結果（幸福のパラドクス）もあり、物質的なゆたかさだけに着目することが重要。
- このような背景の中、県民の幸福を的確に把握することや、県民が自らの幸福について考えるきっかけとすること等を目的として、「岩手の幸福に関する指標」を策定する。
- そして、指標の次期総合計画への反映等を通じて、個人として、また、社会として幸福を求めることが出来る岩手県を目指す。

3 平成28年県の施策に関する県民意識調査結果

- (1) **主観的幸福感について**
幸福の度合いを5段階で評価した主観的幸福感には、既存の調査で聞いている生活満足度と比較すると、非経済的要素との相関が高い傾向があった。
- ・ 多くの属性別集計結果において、先行研究等における調査と同様の傾向を示した。

4 研究内容

- ◆ **用語の定義**
研究会では次のとおり用語を定義する。
- ① **幸福度**
幸福感を表す主観的指標と、幸福に関連する統計データによる客観的指標で示されるもの。
 - ② **主観的幸福感**
「あなたは現在、どの程度幸福だと感じていますか。」という設問に対し、5段階で評価したものの。
 - ③ **領域別幸福感**
幸福に関連するとされる領域毎に、その実感を5段階で評価したもの。



2 指標策定の基本方針

- (1) **新たな施策の展開に活用できる指標とする。**

短期的な数値の上昇や、他地域との比較を主眼とするのではなく、本県の強み弱みを多面的に分析し、よりよい施策への活用を重視する。

- (2) **県民の実感を踏まえた指標とする。**

県民意識調査の結果を重視した指標とする。また、指標を活用し、県民が自らの幸福について考え、身近な人や地域の幸福についても意識するきっかけとする。

- (3) **物質的なゆたかさに加え、岩手が目指すゆたかさにも着目した指標とする。**

幸福に関連する様々な要素を考慮することにも、岩手ならではの生き方や人のつながりといったゆたかさにも着目する。

- (2) **幸福を判断する際に重視した項目について**
性別や年代、主観的幸福感によって重視する項目が異なっていた。
- ・ 先行研究等における調査と同様、健康、家族、家計等の順で重視されており、先行事例と比較して大きな特徴は見られなかった。

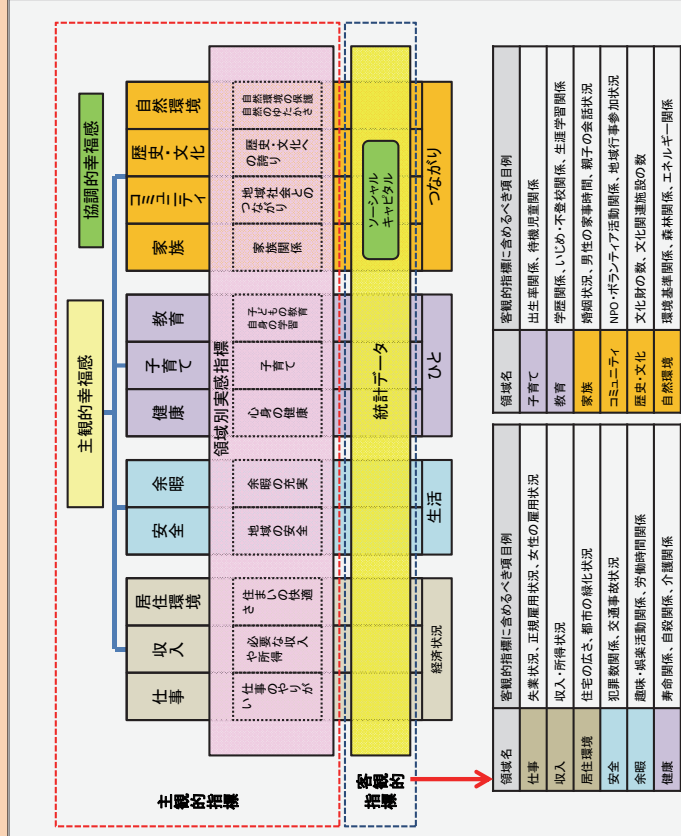
- (3) **領域別実感について**
幸福に関連するとされている領域（収入、家族等の12領域）の実感については、家族、安全等の実感が高く、収入、余暇等の実感が低かった。
- ・ 強弱の差はあるものの、全ての領域において、主観的幸福感との相関が見られた。

◆ 研究会における議論を踏まえた指標体系の考え方

- 県民意識調査結果や先行事例に基づき、次の12領域を幸福に関連する領域とする。
 - ・ 仕事、収入、居住環境
 - ・ 安全、余暇
 - ・ 健康、子育て、教育
 - ・ 家族、コミュニティ、歴史・文化、自然環境
- 指標は、多面的な分析を可能とする観点から、個別指標の集まりである「ダッシュボード方式」で示す。
- 幸福は主観的な面の影響が大きいことから、主観的指標を中心とし、客観的指標で補足する。
 - また、客観的指標については、全国との比較が可能となる指標を盛り込む。
- 岩手が目指すゆたかさを表す指標として、「つながり」を表すことのできる指標設定に向け更なる検討を行う。
 - また、犯罪数に関するものや、労働時間に関するものなど、全国と比較して本県が特徴的な傾向を持つ指標を設定する。

◆ 具体的な指標策定の考え方

- 主観的指標は、主観的幸福感と幸福に関連する領域毎の領域別実感で構成する。
- 「つながり」を重視した指標設定に向け、ソーシャルキャピタルや協調的幸福感の調査を行う。



◆ 今後の検討課題

- 最終報告に向けて、以下の取組を実施する。
 - ① **平成29年県民意識調査**：平成28年の県民意識調査で調査した、主観的幸福感や領域別実感について再調査を実施し、今回の調査結果との比較を行う。
 - ② **県民参画等の方法の具体検討**：ワークショップ等の方法の検討及び試行的実施。その際に活用するツール（幸福に関するテスト等）の検討。
 - ③ **客観的指標の例示**：客観的指標について、更に具体的な指標内容の検討を進める。

「岩手の幸福に関する指標」研究会
中間報告書
(案)

平成28年10月

目次

第1章 「岩手の幸福に関する指標」策定の目的	1
第2章 指標策定の基本方針等	3
1 指標策定の基本方針	
2 研究に当たっての基本的考え方	
第3章 平成28年県の施策に関する県民意識調査結果	6
1 主観的幸福感について	
2 幸福を判断する際に重視した項目について	
3 領域別実感について	
第4章 研究内容	9
第1節 指標体系等の考え方	9
1 幸福に関連する領域	
2 指標の表現方法	
3 指標の種類等	
4 岩手が目指すゆたかさを示す指標	
第2節 具体的な指標設定の考え方	11
1 主観的指標	
2 客観的指標の項目例	
3 「つながり」を重視した指標	
第3節 指標体系案	13
第4節 県民参画等の考え方	13
第5章 今後の検討課題	14
1 平成29年県民意識調査	
2 県民参画等の方法の具体検討	
3 具体的な客観的指標例の提示	
資料1 具体的な主観的指標	15
資料2 客観的指標に含めるべき項目例	16
資料3 ソーシャル・キャピタル及び協調的幸福感の調査設問	18

第1章 「岩手の幸福に関する指標」策定の目的

(1) 近年の「幸福」を取り巻く状況

近年、世界各国で「幸福」を視点とした研究や、指標の策定が進められています。OECD（経済開発協力機構）が、「より良い暮らし指標（Better Life Index：BLI）」を策定し、また、ブータンの提唱する「国民総幸福量（Gross National Happiness：GNH）」の考え方も注目を集めています。国内でも、平成23年に内閣府が設置した幸福度に関する研究会が「幸福度指標試案」を示しており、荒川区や熊本県等、複数の自治体で幸福の概念を政策評価等に用いるなど、行政において、「幸福」を施策の展開に活用しようとする事例が見られます。

高度成長期においては、社会の進歩や住民の福祉の増進を測定するに当たり、主に国内総生産（GDP）のような経済指標が用いられてきました。しかし、その後GDPの増加で示される経済成長は、必ずしも人々の幸福とは繋がっていないという、いわゆる「幸福のパラドックス」が示されるなど、経済指標のみで社会の目標を設定しようとするものの限界が現れ始めており、これから目指すべき社会を考えるためには、物質的なゆたかさだけではない様々な要素に着目することが一層重要となっています。

(2) 「岩手の幸福に関する指標」策定の目的

このような背景の中で、岩手県は、次期総合計画の期間である次の10年を見据え、県民の幸福を的確に把握するための方法として、「岩手の幸福に関する指標」の研究に着手しました。

本研究会は、「岩手の幸福に関する指標」を策定する目的は、次の3つと考えます。

- ① 様々な要素からなる県民の「幸福」を的確に把握できるツールを確立し、施策の展開に活用すること
- ② 指標策定に向けた研究を通じて、これから岩手県はどのような社会を目指していくのかという問いに、「幸福」という切り口から1つの考え方を示すこと
- ③ 県民が自らの幸福について考えるきっかけとすること

そして、指標の次期総合計画への反映等を通じて、個人として、また、社会として幸福を求めることができる岩手県を目指すものです。

(3) 研究に当たっての視点

幸福は様々な要素から構成される概念であり、研究に当たっては、全国に共通するような一般的な視点に加え、地域ならではの視点を考慮することも重要です。

岩手で生まれ育った宮沢賢治が「世界がぜんたい幸福にならないうちは個人の幸福はあり得ない」という言葉を残しているように、岩手には、その歴史や風土、生き方に支えられた幸福の捉え方があるのではないのでしょうか。

また、岩手県は、東日本大震災津波からの復興に当たって、「一人ひとりの幸福追求権を保障すること」を原則に掲げながら進めており、その際、県内外の「つながり」が復興の大きな力となりました。東日本大震災津波という未曾有の被害を経験した岩手県において、未来を見据えて幸福を研究することには大きな意義があると考えます。

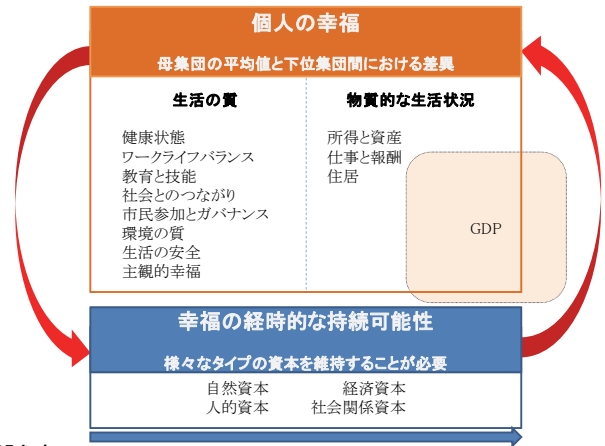
本研究会では、これらの点にも着目しつつ、研究を進めました。

参考 幸福をテーマとした先行事例

(1) OECD「より良い暮らし指標 (Better Life Index : BLI)」

OECD では創設 50 周年記念行事において、「より良い暮らしイニシアチブ」に着手し、幸福度に着目した指標として「より良い暮らし指標」を策定しています。

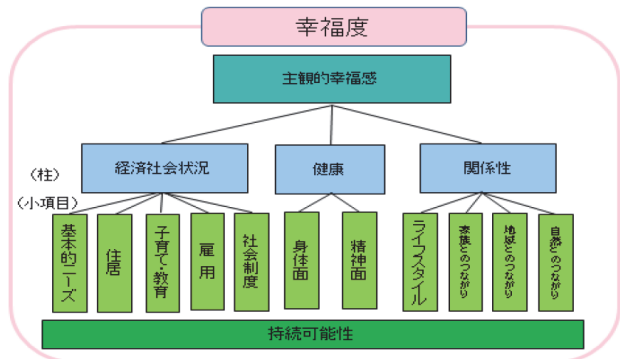
指標の目的として、公共政策に有益な情報を提供することや、社会の進歩について市民参加型の議論を進めることを挙げており、幸福を評価するための三本の柱として、「物質的な生活状態」、「生活の質」、「持続可能性」を置き、それぞれの柱毎に設定した指標から加盟国間の比較を行っています。



(2) 内閣府 幸福度に関する研究会「幸福度指標試案」

内閣府では、幸福度に関する調査研究を推進するため、「幸福度に関する研究会」を設置し、研究会の研究成果として幸福度指標の試案を示しています。

体系として、主観的幸福感を中心に据え、「経済社会状況」、「健康」、「関係性」の3つの柱を立て、現代世代の幸福感が将来世代の幸福の犠牲の下に進むのは望ましくないという観点から、別途「持続可能性」という視点を置き、それぞれの柱において指標案を示しています。



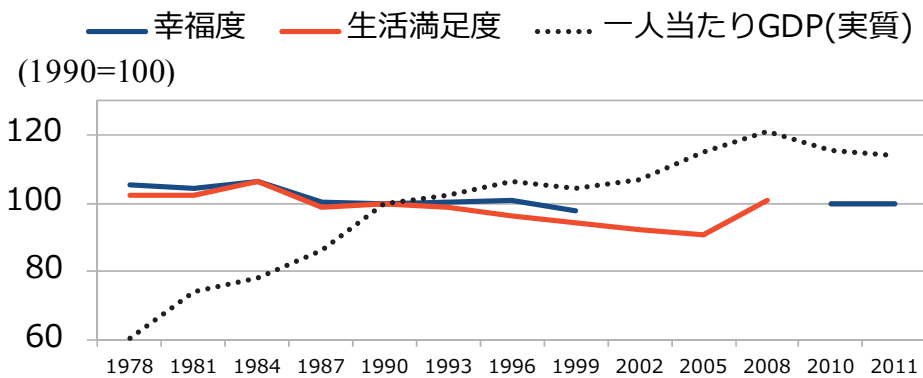
(3) ブータン王国 「国民総幸福量 (Gross National Happiness : GNH)」

ブータン王国では、1972 年に、物質的な側面よりも心の豊かさに着目した指標として、「国民総幸福量 (Gross National Happiness : GNH)」を提唱し、実際に GNH の向上を政策目標としています。GNH は、①心理的幸福、②生活水準、③健康、④地域の活力、⑤教育、⑥文化、⑦環境、⑧時間の使い方、⑨良い統治という 9 つの領域からなり、2006 年以降実際に調査が行われています。

この取組は、GDP に代表される経済指標とは別の視点からの試みとして、世界各国の注目を集めました。

参考 幸福のパラドックス

経済学者であるイースターリンが示した考え方であり、イースターリンのパラドックスとも言われています。先進国では、所得水準と幸福度の平均値に相関がないことを示したものであり、日本国内においても、1 人当たり実質 GDP の動きと幸福度の動きは正の相関を示しておらず、経済成長が必ずしも国民の幸福感や満足感につながっていないことがわかります。



(備考)
 1. 「幸福度」、「生活満足度」は内閣府「国民生活選好度調査」における3年度毎の回答に基づく平均値を1990年を100として相対化したもの。
 2. 一人当たり GDP は内閣府「国民経済計算確報値」及び「四半期別 GDP 速報」、総務省「推計人口」により算出し、1990年を100として相対化したもの。

出所：内閣府（2011）『幸福度に関する研究会報告 —幸福度指標試案—』

第2章 指標策定の基本方針等

1 指標策定の基本方針

岩手の幸福に関する指標を策定するに当たっての基本方針は、以下のとおりとします。

- (1) 新たな施策の展開に活用できる指標とする。
- (2) 県民の実感を踏まえた指標とする。
- (3) 物質的なゆたかさに加え、岩手が目指すゆたかさにも着目した指標とする。

(1) 新たな施策の展開に活用できる指標とする。

指標の活用には、短期的な数値の変動やランキング等による他都道府県等との比較に主眼を置くのではなく、その指標が表す具体的な「意味」に着目することが重要です。

そのため、策定する指標は、次期総合計画を見据え、「幸福」という新たな切り口で、県民の実感やそれを支える様々な要因を評価し、ひいては岩手県の強みや弱みを多面的に分析することが可能になるものとします。

(2) 県民の実感を踏まえた指標とする。

幸福には個人差も含め様々な面があることから、幸福に関する指標を策定する際に、行政が「何が幸福であるか」を定義すること等により、価値観を押し付けることは避けなければなりません。

そのため、策定する指標は、県民意識調査等の結果を重視することで、県民がどのようなことに幸福を感じているかを的確に把握できるものとします。また、県民運動として、地域や県民が指標を活用し、幸福について考えるきっかけとなるようなものとします。

(3) 物質的なゆたかさに加え、岩手が目指すゆたかさにも着目した指標とする。

「幸福のパラドックス」にも表れているように、幸福は、物質的なゆたかさのみを要素とするものではありません。また、第1章(3)で述べたとおり、幸福の様々な要素を重視する観点から、地域ならではの視点を踏まえることも重要です。

そのため、指標の策定に当たって、物質的なゆたかさ以外の要素も考慮するとともに、岩手ならではの生き方や人のつながりといったゆたかさにも着目します。

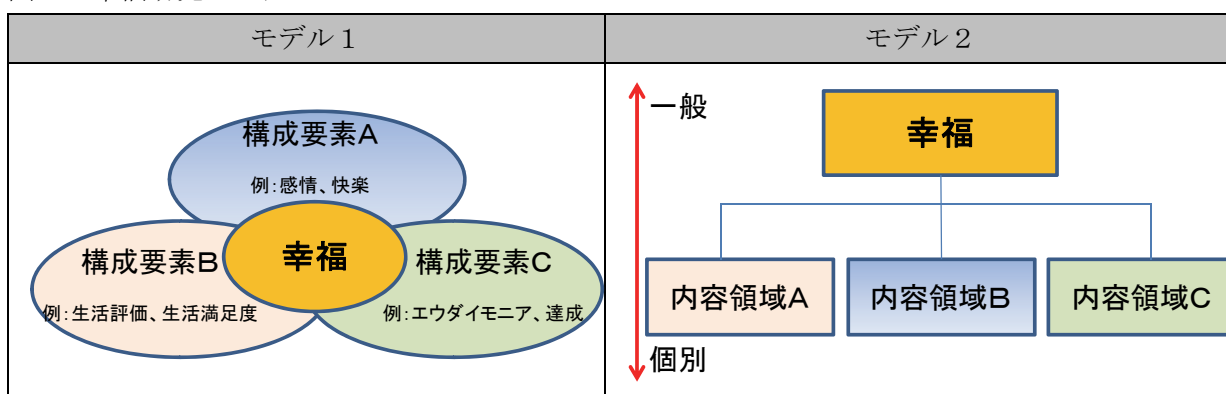
2 研究に当たっての基本的考え方

(1) 研究モデル

幸福に関する研究モデルは、図1に示すとおり、短期的な感情などの個人的な要素にも着目するもの（モデル1）も含めて複数ありますが、本研究会では、政策評価の活用という観点も踏まえ、幸福を総合的な面と個別の内容領域に分けて理解するモデル2を採用しました。この考え方は、内閣府の幸福度指標試案や荒川区の荒川区民総幸福度等、行政における先行事例でも用いられています。

一方、幸福には個人的な要素も含めた様々な面があるのも事実であり、県民に幸福について考えていただくためのきっかけとする観点からは、モデル1にも留意する必要があります。

図1 幸福研究のモデル



出所：溝上慎一（2012）「学校教育で『幸福』をどのように捉えればよいか」、『心理学評論 Vol. 55 No. 1』：156-173、心理学評論刊行会. を参考に研究会で作成。

(2) 用語の整理

「幸福」は多面的な概念であり、受け手によって意味の違いが生じることから、研究に当たり用語の整理を行う必要があります。

「幸福」と類似の用語として、幸せ、生活満足度、福祉・厚生、生活の質等が挙げられます。先行研究等においても、その用法は必ずしも統一されていませんが¹、例えば、OECD等の先行研究においては、「幸せ（happiness）」という単語は一時的な感情が強調される²、「生活満足度（life-satisfaction）」という単語は経済的な面が強調される³、との指摘がなされています。

そのような中、本研究会では、県として幸福を研究するに当たって重視すべきなのは、多面的な観点から「よい状況（well-being）」を保つかどうかにあるという視点で研究を行いました。

また、先行研究等において「幸福度」や「幸福感」といった様々な用語が使用されていますが、本研究会では、(3)で示すとおり、用語の整理を行いました。

¹ 和川（2014）

² OECD（2015）

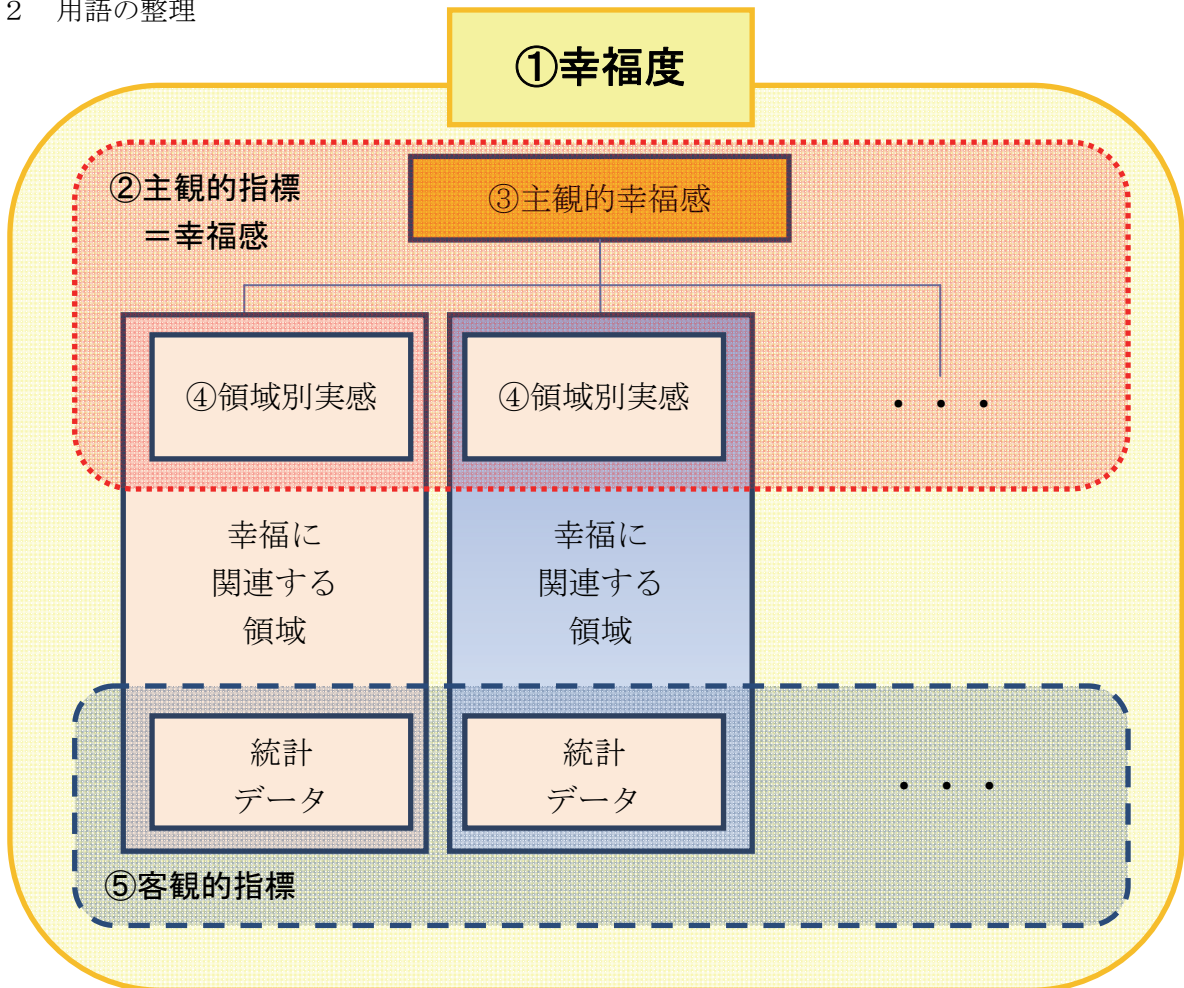
³ 白石・白石（2010）

(3) 研究に当たっての基本的な枠組み

以上を踏まえ、本報告書ではそれぞれの用語を以下のとおり用いることとし、それぞれの関係は図2のとおりとなります。

- ①幸福度…幸福感を表す主観的指標と、幸福に関連する統計データによる客観的指標で示されるもの。
- ②主観的指標…主観的幸福感と領域別実感で構成されるもの。
- ③主観的幸福感…「あなたは現在、どの程度幸福だと感じていますか。」という設問に対し、5段階で評価したもの。
- ④領域別実感…幸福に関連するとされる領域毎に、その実感を5段階で評価したもの。
- ⑤客観的指標…幸福に関連すると考えられる統計データ。

図2 用語の整理



第3章 平成28年県の施策に関する県民意識調査結果

岩手県では、毎年「いわて県民計画」の政策に関連する項目について、県の施策に関する県民意識調査（以下「県民意識調査」という。）を実施しており、平成28年県民意識調査においては、主観的幸福感等に関する調査を実施しました。

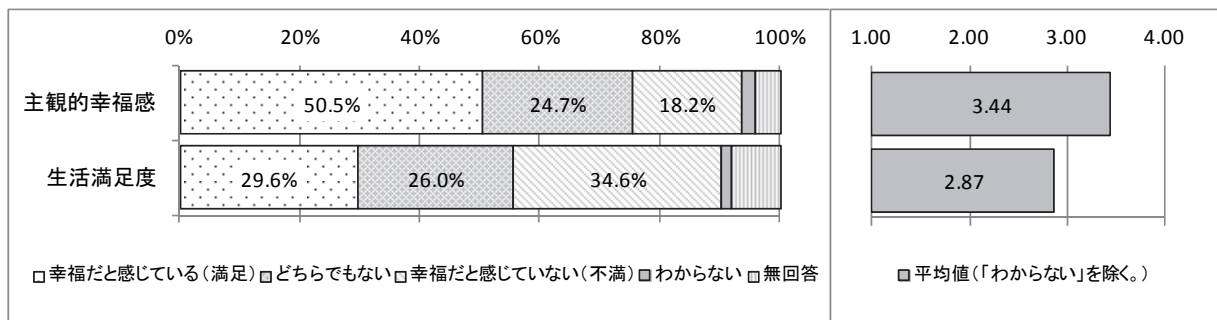
調査内容については資料1に示していますが、その概要は次のとおりです。

1 主観的幸福感について

調査対象者の主観的幸福感と生活満足度について、5段階評価で調査したところ、次の結果となりました。それぞれ異なる結果を示しており、新たに主観的幸福感を測定する意義があるものと考えられます。

- 主観的幸福感は、生活全般の満足を示す生活満足度と異なる結果を示した。
- 多くの属性別集計結果において、先行研究等における調査と同様の傾向を示した。

図3 主観的幸福感と生活満足度の調査結果（県全体）



2 幸福を判断する際に重視した項目について

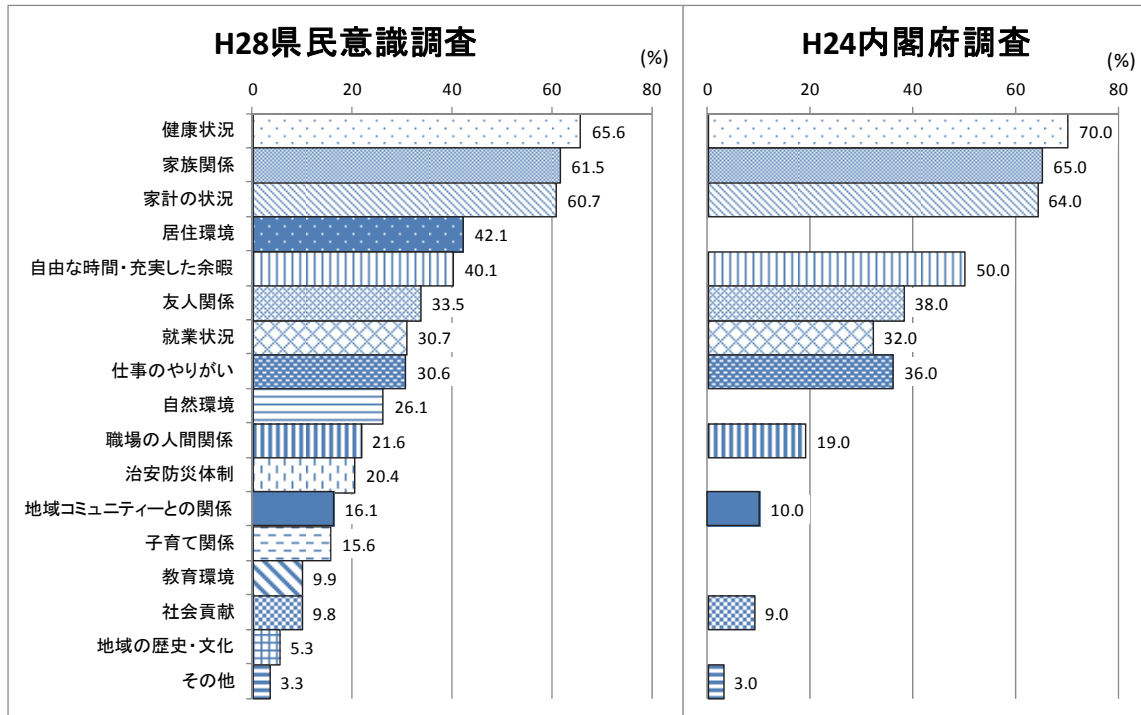
調査対象者が幸福を判断する際に重視した項目については、次の結果となりました。

- 性別や年代によって重視する項目が異なる結果となった。
- 幸福を判断する際に重視する項目については、先行事例と大きな差は見られなかった。
- 主観的幸福感が高い層は関係性を重視し、主観的幸福感が低い層は家計の状況を重視する傾向があった。

表1 幸福を判断する際に重視した項目（属性別順位）

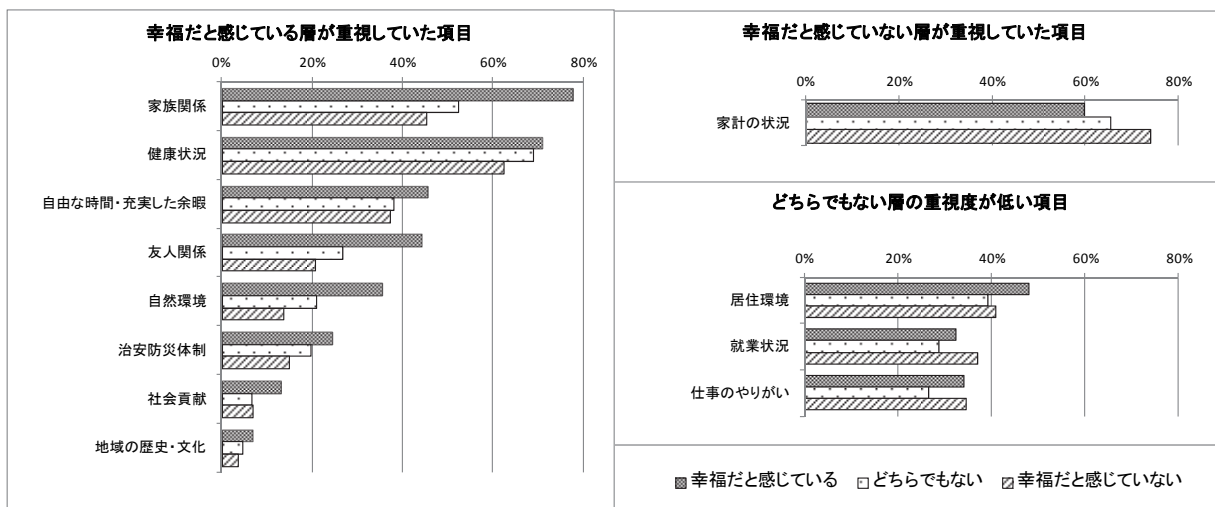
	全体	男性	女性	20代	30代	40代	50代	60代	70代
1位	健康状況	健康状況	健康状況	自由時間・余暇	家計の状況	家計の状況	健康状況	健康状況	健康状況
2位	家族関係	家計の状況	家族関係	家族関係	家族関係	健康状況	家計の状況	家族関係	家族関係
3位	家計の状況	家族関係	家計の状況	健康状況	健康状況	家族関係	家族関係	家計の状況	家計の状況
4位	居住環境	居住環境	居住環境	家計の状況	就業状況	就業状況	居住環境	居住環境	居住環境
5位	自由時間・余暇	自由時間・余暇	自由時間・余暇	友人関係	自由時間・余暇	自由時間・余暇	就業状況	自由時間・余暇	自由時間・余暇
6位	友人関係	仕事のやりがい	友人関係	就業状況	仕事のやりがい	仕事のやりがい	自由時間・余暇	友人関係	友人関係
7位	就業状況	就業状況	就業状況	仕事のやりがい	居住環境	居住環境	仕事のやりがい	自然環境	自然環境
8位	仕事のやりがい	友人関係	仕事のやりがい	職場の人間関係	職場の人間関係	職場の人間関係	友人関係	仕事のやりがい	治安防災体制
9位	自然環境	自然環境	自然環境	居住環境	友人関係	友人関係	自然環境	就業状況	地域コミュニティとの関係
10位	職場の人間関係	職場の人間関係	職場の人間関係	子育て環境	子育て環境	子育て環境	職場の人間関係	治安防災体制	仕事のやりがい

図4 幸福かどうか判断する際に重視する項目の調査結果



出所：内閣府経済社会総合研究所(2013)『生活の質に関する調査』

図5 幸福かどうか判断する際に重視する項目（主観的幸福感の評価結果別）



3 領域別実感について

既存の調査において幸福に関連するとされている家族や収入などの12の領域について、その実感（領域別実感）と主観的幸福感との相関等を調べるため、調査対象者の領域別実感を調査したところ、次の結果となりました。

- ・ 家族や安全に関する実感が高く、健康、子育て、余暇及び収入に関する実感が低い。
- ・ 既存事例で採用されている12領域について、強弱の差はあるものの、主観的幸福感と一定の相関が見られた。
- ・ 領域別実感と生活満足度との相関と比較すると、生活満足度は収入との相関が高かった一方、主観的幸福感では家族や健康などの非経済的要素との相関が高い傾向があった。

図6 領域別実感

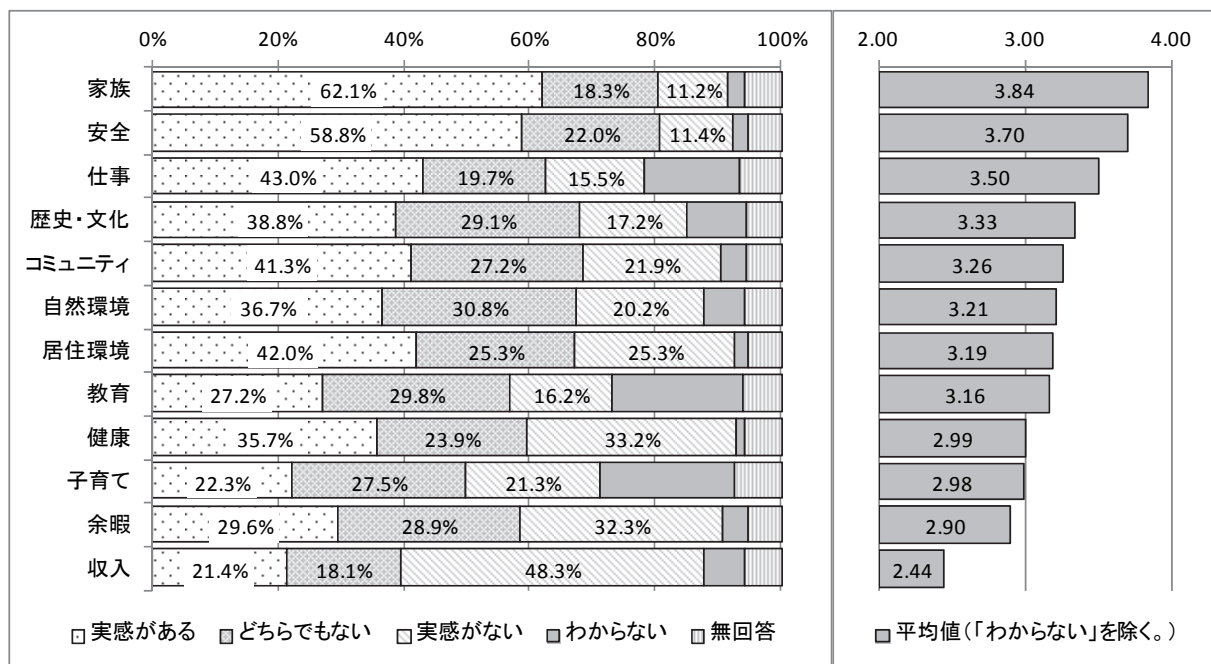


表2 主観的幸福感及び生活満足度と領域別実感の相関

主観的幸福感			生活満足度		
順位	項目名	相関係数	順位	項目名	相関係数
1	余暇の充実	0.53	1	必要な収入や所得	0.46
2	家族関係	0.52	2	余暇の充実	0.44
3	住まいの快適さ	0.50	3	住まいの快適さ	0.44
4	心身の健康	0.50	4	心身の健康	0.40
5	仕事のやりがい	0.42	5	子育て	0.34
6	必要な収入や所得	0.41	6	家族関係	0.31
7	子育て	0.40	7	地域の安全	0.30
8	地域の安全	0.34	8	仕事のやりがい	0.30
9	地域社会とのつながり	0.33	9	地域社会とのつながり	0.28
10	子どもの教育	0.28	10	自然環境の保護	0.23
11	歴史・文化への誇り	0.24	11	子どもの教育	0.23
12	自然環境の保護	0.24	12	歴史・文化への誇り	0.18

相関係数の大きさの記述

0.0 ≤ r ≤ 0.2	ほとんど相関はない	0.2 < r ≤ 0.4	相関はあるが低い
0.4 < r ≤ 0.7	かなり相関がある	0.7 < r ≤ 1.0	強い相関がある

出典 山上暁他「要説 心理統計法」

第4章 研究内容

第1節 指標体系等の考え方

指標体系に関する主な論点についての考え方は以下のとおりです。

1 幸福に関連する領域

- 県民意識調査結果や先行事例に基づき、次の12領域を幸福に関連する領域とする。
 - ・【仕事】【収入】【居住環境】
 - ・【安全】【余暇】
 - ・【健康】【子育て】【教育】
 - ・【家族】【コミュニティ】【歴史・文化】【自然環境】

- ・ 前述の表6のとおり、県民意識調査結果により、主観的幸福感と12の領域別実感に一定の相関が見られました。また、これらの12領域は表7で示すとおり、先行事例においても、幸福に関連する領域として選定されています。

表3 先行事例における幸福に関連する領域

実施者	仕事	収入	居住環境	安全	余暇	健康	子育て	教育	家族	コミュニティ	歴史文化	自然環境	その他
ブータン		○	○	○	○	○		○	○	○	○	○	○
イギリス	○	○	○	○		○		○		○		○	○
CMEPSP	○	○		○	○	○		○		○		○	○
OECD	○	○	○	○	○	○		○	○	○		○	○
法政大学	○	○	○	○		○	○		○				
内閣府	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○	○
東北活性化研究センター	○	○	○	○		○	○	○		○	○	○	
福井県他	○	○		○	○	○	○	○	○	○			
富山県	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
京都府	○		○	○		○	○	○	○	○	○	○	○
三重県	○	○	○	○		○	○	○		○	○	○	○
熊本県	○	○	○	○		○		○	○	○	○	○	
新潟市	○	○		○		○	○	○	○	○			
荒川区	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
滝沢市	○		○	○		○	○	○	○	○	○	○	

※CMEPSP: 経済のパフォーマンスと社会の進歩の測定に関する委員会

出所: (公財) 荒川区自治総合研究所『荒川区民幸福度 (GAH) に関するプロジェクト中間報告書』、(公財) 東北活性化研究センター『幸福度の定量化に関する調査研究』中間報告書』を参考に研究会で作成

2 指標の表現方法

- 指標の表現方法には、複数の指標を1つの数値に統合する「統合方式」と、個別指標の集まりをダッシュボードで示す「ダッシュボード方式」が考えられるが、多面的に分析し、新たな施策の展開への活用を重視する観点等から、ダッシュボード方式を採用する。
- 一方、県民に考えていただくきっかけとする際には、わかりやすさの観点から、統合方式の採用を検討する。

3 指標の種類等

- 幸福は主観的な面が大きく影響することから、主観的指標を中心とした上で、主観のみでは捉えにくい点等を客観的指標で補足する構成とする。
- 主観的指標は、短期的な数値の増減に着目するのではなく、長期的な視点での数値の維持・向上を図るという観点で設定する。また、客観的指標は、行政として直接関与できるものもあり、現状を的確に把握するため、全国との比較が出来る指標を設定する。
- 指標は、世代やライフステージ等の属性によって、幸福を判断する際に重視する項目が異なることが考慮されたものとする。

4 岩手が目指すゆたかさを示す指標

- 岩手における幸福の特徴として、人や地域などの「つながり」がキーワードとして考えられることから、「つながり」を表すことのできる指標設定を行う。
- また、客観的指標の設定に当たって、県民意識調査の結果を重視するとともに、岩手の強みや弱みを的確に把握するため、全国と比較して本県が特徴的な傾向を持つ指標を設定する。

- ・ 岩手県では「つながり」を総合計画である「いわて県民計画」において位置付ける等、これまでも「つながり」を重視しています。先行研究においても、表8に示すとおり、日本を含む東アジアでは北米に比較して関係性が重視される傾向にあることが示されています。

表4 文化的幸福感に関する知見

文化	幸福の捉え方	幸福の予測因
北米	ポジティブ 増大モデル 高覚醒	個人達成志向 ・主体性と自律性 ・個人目標達成 ・自尊心、誇り
東アジア	ネガティブさの包摂 陰陽思考 低覚醒	関係志向 ・協調的幸福、人並み感 ・関係目標達成 ・関係性調和 ・ソーシャル・サポート

出所：内田 由紀子他（2012）「文化的幸福観—文化心理学的知見と将来への展望—」、『心理学評論 Vol. 55 No. 1』：26-42、心理学評論刊行会。

- ・ 県民意識調査では、無職（60歳未満）や臨時雇用者の主観的幸福感が低いなどの傾向があることから、それらを踏まえた指標の設定を行うことが重要です。

また、岩手県が全国と比較して水準が高い項目として、例えば、刑法犯認知件数、不登校児童生徒率、ボランティア活動の年間行動者率などがあり、低い項目として、一人当たり県民所得、平均寿命、自殺死亡者数、一人平均総実労働時間などがあります。こういった項目を客観的指標として設定することで、岩手県の強みや弱みを的確に把握することが可能となります。

第2節 具体的な指標の考え方

第1節を踏まえ、主観的指標、客観的指標及び「つながり」を重視した指標の中間報告における具体的な考え方は以下のとおりです。なお、今後、最終報告に向けて、更に分析・検討を加える必要があります。

1 主観的指標

具体的な主観的指標について資料1で示しており、その考え方は以下のとおりです。

- 主観的指標については、総合的な幸福を示す**主観的幸福感**と、関連する領域毎に設定した**領域別実感**で構成する。その際、領域別実感指標は、その調査のための設問内容と一体のものであり、指標名は設問内容を的確に表現したものとす。
- 領域別実感の設領域別実感を調査する設問については、平成28年県民意識調査結果における設問を基本とするが、教育領域について自身の教育環境に関する設問を、自然環境領域について自然のゆたかさに関する設問を、それぞれ追加する。

2 客観的指標の項目例

客観的指標に含めるべき項目例について資料2で示しており、その考え方は以下のとおりです。

- 客観的指標の項目については、基本方針等も踏まえ、以下の観点から選択する。
 - ① 県民意識調査の結果から**主観的幸福感と関係が認められたもの**
 - ② 先行研究で**主観的幸福感と関係するとされているもの**
 - ③ 先行事例で採用頻度が高いもの
 - ④ 岩手の目指すゆたかさを示すもの（岩手の強み弱みや、「つながり」に関連するもの）

3 「つながり」を重視した指標

今回、岩手が目指すゆたかさを示す新たな指標として、「つながり」を重視した指標を設定します。特に新しい考え方として、以下の2点について、平成29年県民意識調査に資料3のとおり調査項目を追加し、導入の可能性に向け、最終報告に向け、検討を深めます。

(1) ソーシャル・キャピタル

- 社会関係資本、いわゆるソーシャル・キャピタルとは、個人間のつながりのことを指すが、ソーシャル・キャピタルが豊かな地域では、相互依存的な幸福が成立する傾向にあることが判明しており、近年、経済資本や人的資本と並び、重要な概念として注目されている。

そのため、平成29年県民意識調査において、**周囲との付き合いや地域の活動状況について新たに調査し、主観的幸福感等との関連を分析を行う。**

(2) 協調的幸福感

- 前述のとおり、日本は幸福かどうか考える際に、人との関係性を重視し、他者との協調性と他者の幸福、平穏な感情状態に焦点を置く傾向があり、これらを踏まえた幸福感の考え方として、**協調的幸福感** (Hitokoto, H. & Uchida, Y. 2015) という概念が示されている。

そのため、平成29年県民意識調査において、**他者の幸福に関する認識等を新たに調査し、主観的幸福感との関係等について分析を行う。**

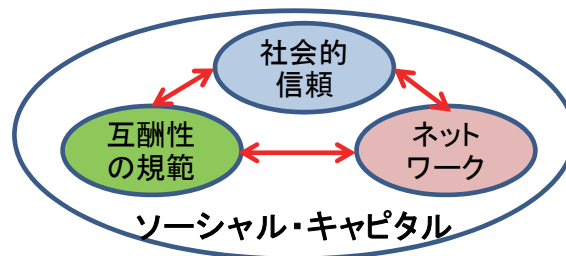
参考 ソーシャル・キャピタルとは

OECD では、幸福を持続可能なものとするために、4つの資本、すなわち経済（物的）資本、人的資本、自然資本、社会関係資本の維持を重視しています。

- ①経済（物的）資本：人工資本（建物・機械等）と金融資本を指す。
- ②人的資本：個人の知識、技能、能力、健康を指す。
- ③自然資本：自然環境の様々な側面を指し、鉱物、エネルギー資源などの個々の資産と、生態系（森林、土壌、水・大気環境）による相互作用を含む。
- ④社会関係資本：集団内や集団間の協働を容易にする社会生活の規範、信頼、価値観を指す。

これらのうち、社会関係資本、いわゆるソーシャル・キャピタルとは、提唱者とされている R. パットナムによると、「人々の協調行動を活発にすることによって社会の効率性を改善できる、【信頼】、【規範】、【ネットワーク】といった社会組織の特徴」とされています。

平たくいえば、【信頼】、「情けは人の為ならず」「持ちつ持たれつ」「お互い様」といった【互酬性の規範】、そして【人やグループの間の絆】を意味しており、ソーシャル・キャピタルが豊かな地域ほど、完全失業率や犯罪率が低く、合計特殊出生率が高く、65歳以上女性の平均余命が長いという結果が示されています。



出所： 内閣府（2003）『ソーシャル・キャピタル：豊かな人間関係と市民活動の好循環を求めて』
滋賀大学・内閣府経済社会総合研究所（2016）『ソーシャル・キャピタルの豊かさを生かした地域活性化』
OECD（2015）『OECD 幸福度白書2』明石書店

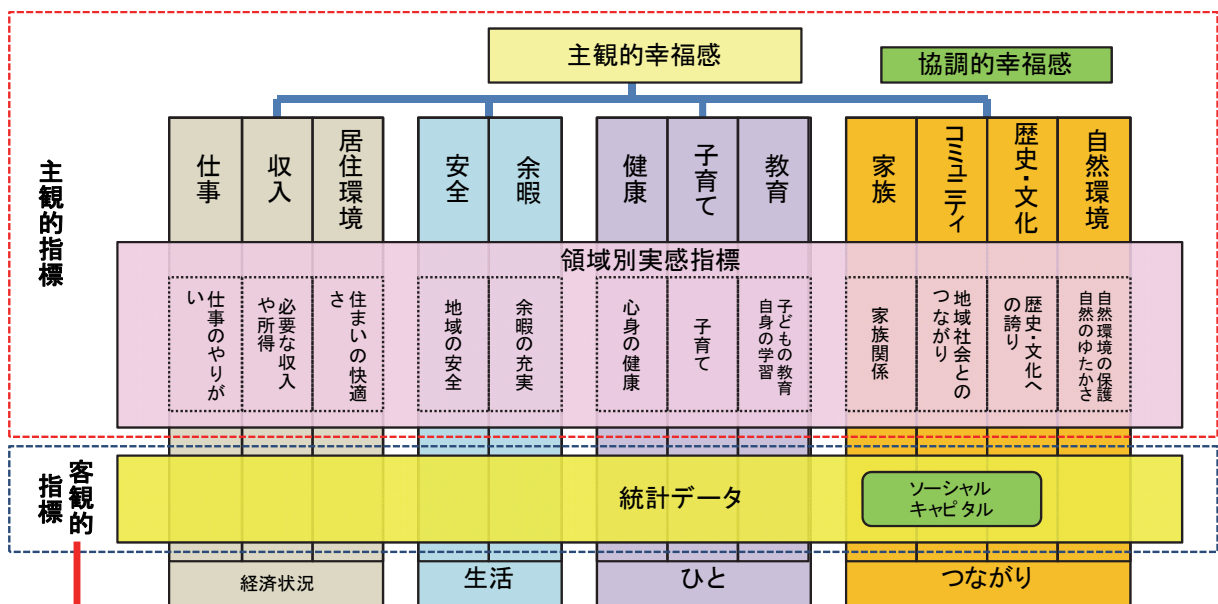
第3節 指標体系案

以上を踏まえ、中間報告における岩手の幸福に関する指標の体系案を、図3のとおり示します。

なお、本体系においては、12の関連領域を更に「経済状況」、「生活」、「ひと」、「つながり」の4つの大領域に区分しました。これは、経済的要素以外の要素に着目すること、「つながり」を重視することといった考え方を踏まえ、わかりやすさの観点から分類を試みたものです。

また、今後導入の可能性について検討するソーシャル・キャピタル及び協調的幸福感については、平成29年県民意識調査の結果を踏まえ、この体系の中でどのように位置づけるかの検討を行う必要があります。

図7 岩手の幸福に関する指標の体系案



領域名	客観的指標に含めるべき項目例	領域名	客観的指標に含めるべき項目例
仕事	失業状況、正規雇用状況、女性の雇用状況	子育て	出生率関係、待機児童関係
収入	収入・所得状況	教育	学歴関係、いじめ・不登校関係、生涯学習関係
居住環境	住宅の広さ、都市の緑化状況	家族	婚姻状況、男性の家事時間、親子の会話状況
安全	犯罪数関係、交通事故状況	コミュニティ	NPO・ボランティア活動関係、地域行事参加状況
余暇	趣味・娯楽活動関係、労働時間関係	歴史・文化	文化財の数、文化関連施設の数
健康	寿命関係、自殺関係、介護関係	自然環境	環境基準関係、森林関係、エネルギー関係

第4節 県民参画等の考え方

基本方針でも示したとおり、幸福に関する指標の策定に当たって、県が価値観を押し付けることは避けなくてはなりません。そのため、ワークショップや読本等により、幸福研究の目的について県民に理解していただくとともに、県民の意見を聴き、また、幸福について考えていただく取組を行う必要があります。

第6章 今後の検討課題

今回中間報告は、平成28年県民意識調査や先行研究等を踏まえて、幸福に関する指標について現時点での考え方を整理したものであり、今後、最終報告に向けて、更に次の事項に取り組みます。

1 平成29年県民意識調査

平成28年の県民意識調査で調査した、主観的幸福感や領域別実感について再調査を実施し、今回の調査結果との比較を行います。

また、ソーシャル・キャピタルや協調的幸福感について新規に調査を行い、主観的幸福感との関係等について分析します。

2 県民参画等の方法の試行検討

指標を県民の実感があるものとするとともに、県民が自らの幸福について考え、身近な人や地域の幸福についても意識するきっかけとするため、ワークショップ等の方法について検討します。その際、ワークショップで活用できるようなツール（幸福に関するテスト等）も検討します。

なお、次期総合計画への反映という観点からは、その策定に併せてワークショップを行うことが考えられますが、検討を深めるため、本研究会においても試行的に実施します。

3 具体的な客観的指標例の提示

中間報告で項目例を示した客観的指標について、更に具体的な指標内容の検討を進めます。

資料1 具体的な主観的指標

1 主観的幸福感

設問
あなたは現在、どの程度幸福だと感じていますか

2 領域別実感

領域	設問	領域別実感指標名
仕事	仕事にやりがいを感じますか	仕事のやりがい
収入	必要な収入や所得が得られていると感じますか	必要な収入や所得
安全	お住まいの地域は安全だと感じますか	地域の安全
余暇	余暇が充実していると感じますか	余暇の充実
居住環境	住まいに快適さを感じますか	住まいの快適さ
健康	こころやからだは健康だと感じますか	心身の健康
子育て	子育てがしやすいと感じますか	子育て
教育	子どものためになる教育が行われていると感じますか	子どもの教育
	あなた自身が学習する環境が充実していると感じますか	自身の学習
家族	家族と良い関係がとれていると感じますか	家族関係
コミュニティ	地域社会とのつながりを感じますか	地域社会とのつながり
歴史・文化	地域の歴史や文化に誇りを感じますか	歴史・文化への誇り
自然環境	地域の自然環境が守られていると感じますか	自然環境の保護
	自然に恵まれていると感じますか	自然のゆたかさ

資料2 客観的指標に含めるべき項目例

領域	客観的指標に含めるべき項目	対象	選定根拠				説明
			①県民意見調査結果	②研究事例	③先行事例	④相手の目指すゆたかさ	
仕事	失業状況	成人	○	○	○		①無職(60歳未満)は主観的幸福感が低い。 ②失業者は幸福度が低いとの研究結果がある。 ③複数の先行事例で採用されている。
	正規雇用状況	成人	○	○	○		①臨時雇用者は主観的幸福感が低い。 ②パート・アルバイトの幸福度は低いとの研究結果がある。 ③複数の先行事例で採用されている。
	女性の雇用状況				○		③複数の先行事例で採用されている。
	高齢者の雇用状況	高齢者			○		③複数の先行事例で採用されている。
	求人倍率関係	成人			○		③複数の先行事例で採用されている。
	事業所の売上関連				○		③複数の先行事例で採用されている。
収入	収入・所得状況			○	○	●	②所得が高い人は幸福度が高いとの研究結果がある。 ③複数の先行事例で採用されている。 ④一人当たり県民所得(平成24年度) 全国31位
	生活保護関係				○		③複数の先行事例で採用されている。
安全	犯罪数関係				○	○	③複数の先行事例で採用されている。 ④刑法犯認知件数(人口千人当たり 平成26年)が全国2番目に少ない。
	交通事故状況				○	○	③複数の先行事例で採用されている。 ④人口10万人当たり交通事故件数(平成26年度)が211件であり、全国平均よりも低い(全国平均452件)。
	防災組織状況				○		③複数の先行事例で採用されている。
	火災関係				○		③複数の先行事例で採用されている。
	消費者相談関係				○		③複数の先行事例で採用されている。
居住環境	住宅の広さ				○	○	③複数の先行事例で採用されている。 ④1住宅当たりの敷地面積(平成25年):全国3位 持ち家住宅の延べ面積(1住宅当たり 平成25年):全国9位
	都市の緑化状況				○		③複数の先行事例で採用されている。
	交通の利便性				○		③複数の先行事例で採用されている。
	情報関連					●	④インターネット普及率(平成26年)、全国46位
余暇	趣味・娯楽活動関係				○	●	③複数の先行事例で採用されている。 ④趣味・娯楽の平均時間(平成23年):男性全国47位、女性37位
	労働時間関係				○	●	③複数の先行事例で採用されている。 ④一人平均総実労働時間(平成26年):全国46位
	自由時間関係				○		③複数の先行事例で採用されている。
健康	寿命関係	高齢者			○	●	③複数の先行事例で採用されている。 ④健康寿命(平成22年):全国40位、平均寿命(平成22年):全国45位
	自殺関係				○	●	③複数の先行事例で採用されている。 ④自殺死亡率(平成26年):全国47位
	食事・栄養関係				○		③複数の先行事例で採用されている。
	運動関係				○		③複数の先行事例で採用されている。
	医療体制				○		③複数の先行事例で採用されている。
	介護対象関係	高齢者			○		③複数の先行事例で採用されている。
子育て	老人福祉施設関係	高齢者			○		③複数の先行事例で採用されている。
	出生率関係				○		③複数の先行事例で採用されている。
	乳児医療関係	若者			○		③複数の先行事例で採用されている。
	待機児童関係	成人			○		③複数の先行事例で採用されている。
教育	児童虐待関係	若者			○		③複数の先行事例で採用されている。
	学歴関係				○	●	③複数の先行事例で採用されている。 ④大学進学率(平成27年度):全国42位
	いじめ・不登校関係	若者			○	○	③複数の先行事例で採用されている。 ④不登校児童生徒率(平成26年度):全国3位
	学力状況	若者			○		③複数の先行事例で採用されている。
	思いやり関係	若者			○		③複数の先行事例で採用されている。
	子どもの体力関係	若者			○		③複数の先行事例で採用されている。
生涯学習関係	成人・高齢者			○		③複数の先行事例で採用されている。	

領域	客観的指標に含めるべき項目	対象	選定根拠				説明
			①県民意識調査結果	②研究事例	③先行事例	④岩手の目指すゆたかさ	
家族	婚姻状況	成人・高齢者	○	○	○	●	①②一人暮らしは主観的幸福感が低い。 ③複数の先行事例で採用されている。 ④未婚者割合(45-49歳男性 平成22年):全国45位
	世帯構成関係	成人	○		○	○	①一人暮らしは主観的幸福感が低い。 ③複数の先行事例で採用されている。 ④三世帯同居率(平成22年):全国7位
	男性の家事時間	成人		○		○	②男性の家事時間と女性の幸福度に関連があるとの研究結果がある。 ④6歳未満の子供がいる世帯の夫の家事時間(週全体)(平成23年):全国1位
	親子の会話状況	若者			○		③複数の先行事例で採用されている。
コミュニティ	NPO・ボランティア活動関係				○	○	③複数の先行事例で採用されている。 ④ボランティア活動の年間行動者率(平成23年):全国5位 ソーシャルキャピタル指数の構成要素である。
	地域行事への参加状況				○	○	③複数の先行事例で採用されている。 ④今住んでいる地域の行事に参加している率(平成26年) 小学生:全国4位 中学生:全国2位
	募金活動関連					○	④赤い羽根募金金額(一人当たり)(平成26年度):全国2位 ソーシャルキャピタル指数の構成要素である。
	高齢者の社会活動関係	高齢者			○		③複数の先行事例で採用されている。
	相談できる相手				○		③複数の先行事例で採用されている。
	定住関係				○		③複数の先行事例で採用されている。
歴史・文化	多文化共生関係				○	●	③複数の先行事例で採用されている。 ④海外渡航者率:全国45位(平成26年)、留学生数:全国43位(平成26年度)
	文化財の数					○	④民俗文化財指定件数(H27.11時点):全国8位
	文化関連施設の数					○	④常設映画館数(人口100万人当たり)(平成26年度):全国10位 博物館数(人口100万人当たり)(平成26年度):全国11位
自然環境	環境基準関係			○	○	○	②大気汚染が幸福度に負の影響を与えているとの研究結果がある。 ③複数の先行事例で採用されている。 ④基準の達成率が全国平均よりも高い。 平成26年度水質基準達成率99.1%(全国89.1%)
	リサイクル関係				○		③複数の先行事例で採用されている。
	ごみの排出量関係				○		③複数の先行事例で採用されている。
	森林の状況					○	④森林率(総面積当たり)(平成21年度):全国8位
	エネルギー関係					○	④再生利用可能エネルギー自給率(平成26年度):全国8位

※「④岩手の目指すゆたかさ」の欄には、岩手の強みに関連するものに○を、弱みに関連するものに●を記載。

出所：公益財団法人荒川区自治総合研究所（2012）『荒川区民総幸福度（GAH）に関する研究プロジェクト第二次中間報告書』
 上山信一・玉山雅敏・千田俊樹（2012）『住民幸福度に基づく都市の実力評価 GDP志向型モデルから市民の等身大ハピネス（NPH）へ』時事通信社
 京都府（2015）『ベンチマークレポート＜「明日の京都」実施状況報告書＞』
 自立と分散で日本を変えるふるさと知事ネットワーク ふるさと希望指数(LHI)研究プロジェクト(2014) 『ふるさと希望指数(LHI:Local Hope Index)共同プロジェクト(第二期)報告書』
 公益財団法人東北活性化研究センター（2013）『幸福度の定量化に関する調査研究 報告書』
 富山県（2012）『富山県総合計画 新・元気とやま創造計画』
 千葉大学・永続地帯研究会（2015）『永続地帯2014年度版報告書』
 内閣府（2011）『幸福度に関する研究会報告 ー幸福度指標試案ー』
 一般財団法人日本総合研究所（2016）『全47都道府県幸福度ランキング2016年版』東洋経済新報社
 OECD（2012）『OECD幸福度白書』明石書店

1 ソーシャル・キャピタルに関する設問

県では、みなさんの幸福に関連するものとして、「つきあい・交流」、「信頼」、「社会参加」といった「つながり」に関する項目に注目しており、ここからはあなたの「つながり」に関する行動や考え方等についてお伺いします。

問1 あなたは、ご近所の方とどのようなおつきあいをされていますか。つきあいの程度について、次のうちから当てはまるものを1つだけ選び、番号に○をつけてください。

- 1 互いに相談したり日用品の貸し借りをするなど、生活面で協力しあっている人もいる
- 2 日常的に立ち話をする程度のつきあいはしている
- 3 あいさつ程度の最小限のつきあいしかしていない
- 4 つきあいは全くしていない

問2 つきあっているご近所の方の数について、次のうちから当てはまるものを1つだけ選び、番号に○をつけてください。

- 1 近所はかなり多くの人と面識・交流がある（概ね20人以上）
- 2 ある程度の人との面識・交流がある（概ね5～19人）
- 3 近所のごく少数の人とだけと面識・交流がある（概ね4人以下）
- 4 隣の人がだれかも知らない

問3 あなたは、①友人・知人、②親戚・親類とどのようなおつきあいをされていますか。次のうちから当てはまるものを1つずつ選び、番号に○をつけてください。

調査項目	該当するものを1つ選び、番号に○をつけてください。					
	日常的にある (毎日から週に数回程度)	ある程度頻繁にある (週に1回～月に数回程度)	ときどきある (月に1回～年に数回程度)	めったにない (年に1回～数年に1回程度)	全くない	該当する人は いない
① 友人・知人とのつきあい (学校や職場以外で)	5	4	3	2	1	0
② 親戚・親類とのつきあい (同居している方を除く)	5	4	3	2	1	0

問7 あなたのお住まいの地域に対する実感をおたずねします。あなたの実感に最も近いものを1つ選び、番号に○をつけてください。

調査項目	最も近いものを1つ選び、番号に○をつけてください				
	感じる	やや感じる	え ない ど ちら とも い	い あ ま り 感 じ な	感じない
① 地域への愛着を感じていますか	5	4	3	2	1
② ご近所とのつきあいはよいと感じますか	5	4	3	2	1
③ 信頼できる人が身近にいますか	5	4	3	2	1
④ 地域での活動や社会貢献活動に参加できていると感じますか	5	4	3	2	1

2 協調的幸福感に関する設問

あなたの周りの人の幸福等について、あなた自身の実感をおたずねします。①～⑥の各項目について、あなたの実感に最も近いものを1つ選び、番号に○をつけてください。

調査項目	最も近いものを1つ選び、番号に○をつけてください				
	感じる	やや感じる	え ない ど ちら とも い	い あ ま り 感 じ な	感じない
① 身近な周りの人が幸福であると感じますか	5	4	3	2	1
② 周りの人に認められていると感じますか	5	4	3	2	1
③ 大切な人を幸福にしていると感じますか	5	4	3	2	1
④ 安定した日々を過ごしていると感じますか	5	4	3	2	1
⑤ 人に迷惑をかけずに自分のやりたいことができていると感じますか	5	4	3	2	1
⑥ 周りの人たちと同じくらい幸福だと感じますか	5	4	3	2	1

参考文献・資料

- 公益財団法人荒川区自治総合研究所 (2011) 『荒川区民総幸福度 (GAH) に関するプロジェクト中間報告書』
- 公益財団法人荒川区自治総合研究所 (2012) 『荒川区民総幸福度 (GAH) に関する研究プロジェクト第二次中間報告書』
- 上山信一・玉山雅敏・千田俊樹 (2012) 『住民幸福度に基づく都市の実力評価 GDP 志向型モデルから市民の等身大ハッピネス (NPH) へ』時事通信社
- 内田 由紀子・萩原 祐二 (2012) 「文化的幸福観—文化心理学的知見と将来への展望—」、『心理学評論 Vol. 55 No. 1』: 26-42、心理学評論刊行会.
- 大竹文雄・白石小百合・筒井義郎編 (2010) 『日本の幸福度—格差・労働・家族—』日本評論社
- 京都府 (2015) 『ベンチマークレポート<「明日の京都」実施状況報告書>』
- 熊本県 (2012) 『県民幸福度を測る指標の作成に係る調査研究 報告書』
- 滋賀大学・内閣府経済社会総合研究所 (2016) 『ソーシャル・キャピタルの豊かさを生かした地域活性化』
- 自立と分散で日本を変えるふるさと知事ネットワーク ふるさと希望指数 (LHI) 研究プロジェクト (2012) 『ふるさと希望指数 (LHI:Local Hope Index) 研究報告書』
- 自立と分散で日本を変えるふるさと知事ネットワーク ふるさと希望指数 (LHI) 研究プロジェクト (2014) 『ふるさと希望指数 (LHI:Local Hope Index) 共同プロジェクト (第二期) 報告書』
- 滝沢市 (2015) 『滝沢市第一次滝沢市総合計画』
- 千葉大学・永続地帯研究会 (2015) 『永続地帯 2014 年度版報告書』
- 公益財団法人東北活性化研究センター (2012) 『幸福度の定量化に関する調査研究 中間報告書』
- 公益財団法人東北活性化研究センター (2013) 『幸福度の定量化に関する調査研究 報告書』
- 富山県 (2012) 『富山県総合計画 新・元気とやま創造計画』
- 内閣府 (2003) 『ソーシャル・キャピタル: 豊かな人間関係と市民活動の好循環を求めて』
- 内閣府 (2011) 『幸福度に関する研究会報告 —幸福度指標試案—』
- 内閣府経済社会総合研究所 (2013) 『生活の質に関する調査』
- 一般財団法人日本総合研究所 (2016) 『全 47 都道府県幸福度ランキング 2016 年版』東洋経済新報社
- 三重県 (2012) 『みえ県民力ビジョン』
- 溝上慎一 (2012) 「学校教育で『幸福』をどのように捉えればよいか」、『心理学評論 Vol. 55 No. 1』: 156-173、心理学評論刊行会.
- 山上暁・倉智佐一 (1991) 『要説 心理統計法』北大路書房
- 和川央 (2014) 『生活満足度と政策に関する実証分析-意識調査を用いた因果構造モデルの構築-』
- OECD (2012) 『OECD 幸福度白書』明石書店
- OECD (2015) 『OECD 幸福度白書 2』明石書店
- OECD (2015) 『主観的幸福を図る OECD ガイドライン』明石書店
- Hitokoto, H. & Uchida, Y. (2015). Interdependent happiness: Theoretical importance and measurement validity. *Journal of Happiness Studies*, *16*, 211-239.

「岩手の幸福に関する指標」研究会設置要領

(名称)

第1条 本研究会は、「岩手の幸福に関する指標」研究会と称する。

(目的)

第2条 岩手の幸福に関する指標の策定等に当たり、専門的観点から研究・調査を行う。

(所掌事務)

第3条 研究会の所掌事項は次のとおりとする。

- (1) 岩手の幸福に関する指標の検討
- (2) その他関連事項

(組織)

第4条 研究会の委員は別表に掲げる者とする。ただし、座長が必要と認めた場合は、オブザーバーとして行政機関の職員や学識経験者等を参加させることができるものとする。

(座長)

第5条 研究会には座長を置き、座長は研究会で選任するものとする。

(職務等)

第6条 座長は、研究会の議長となり、会務を総理する。

(事務局)

第7条 研究会の事務局は、岩手県政策地域部政策推進室に置く。

(補則)

第8条 この要領に定めるもののほか、研究会の運営に必要な事項は、別途協議のうえ定める。

附 則

この要綱は、平成28年4月5日から施行する。

別表

(研究会委員)

氏名	役職名
竹村 祥子	岩手大学人文社会科学部 教授
谷藤 邦基	株式会社イーアールアイ 監査役
山田 佳奈	岩手県立大学総合政策学部 准教授
吉野 英岐 (座長)	岩手県立大学総合政策学部 教授
若菜 千穂	特定非営利活動法人いわて地域づくり支援センター 常務理事

(アドバイザー)

氏名	役職名
広井 良典	京都大学こころの未来研究センター 教授

(敬称略 50音順)

○検討経過

回	開催日	協議事項等
第1回	平成28年4月28日	1 座長の選出 2 研究会の基本的な考え方について 3 スケジュール
第2回	平成28年7月21日	1 「岩手の幸福に関する指標」と政策評価 2 主観的幸福度等に関する県民意識調査の分析結果について 3 検討項目 (1) 幸福の概念 (2) 幸福に関する領域 (3) 指標の表現方法 (4) 指標の種類（Ⅰ主観的指標と客観的指標・Ⅱ指標設定の考慮事項）
第3回	平成28年9月27日	1 第2回研究会で示された課題について 2 検討項目 (1) 指標の種類 ア 「岩手らしさ」を踏まえた指標設定の考え方について イ 主観的指標の具体例について ウ 客観的指標の項目例について (2) 県民参画等による指標の活用方法
第4回	平成28年10月28日	1 第3回研究会で示された主な御意見について 2 検討項目 (1) 中間報告書 (2) 今後のスケジュール

「岩手の幸福に関する指標」研究会 今後のスケジュール(案)

資料4

項目	平成28年度				平成29年度				備考				
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月		6月	7月	8月	9月以降～
研究会													
開催													
報告書													
中間報告書													
最終報告書													
総合計画審議会													
県民意識調査													
調査期間													
調査結果分析													
調査票準備													

○第4回

【協議事項】
・中間報告書

○WSの検討・試行
○具体的な客観指標(例)の検討

【協議事項】
・WSの試行結果
・県民意識調査の速報
・具体的な客観指標(例)

○第5回

【協議事項】
・県民意識調査の分析結果
・これまでの意見を踏まえ、
最終報告書(案)について
協議

○第6回

【協議事項】
・最終報告書

○第7回

○最終報告書

○第2回

総合計画審議会へ「研究
会中間報告書」を報告

○第3回

総合計画審議会へ「研究
会最終報告書」を報告